

＜空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！＞ 2022.3.16

JAL闘争を支える京都の会 News No.82

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX: 075-531-3856 E-mail: komai123@kfa.biglobe.ne.jp

「解雇する必要はなかった」 (稻盛和夫会長：当時) ならば 不当解雇をただちに撤回せよ！

3月8日、165名を解雇したJAL稻盛和夫会長（当時：現在JAL名誉顧問）の地元の大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ「ユニオンネットワーク京都」に結集する皆さん、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」「9条ネット・滋賀」の皆さんなど、13名に参加していただきました。JHUからは神瀬麻里子さんに参加していただきました。

JHUの神瀬さんは以下のように訴えました。「稻盛さんは私たちを解雇した後、あの解雇は必要がなかったと記者会見やJAL不当解雇撤回裁判の法廷で証言をしている。裁判が進むうちにいろいろなことがわかつってきた。私たちを解雇した本当の目的は組合つぶしであった。組合に結集し、ダメなものにはダメ、安全でないものには安全でない、としっかりモノを言ってきた私たち労働組合員がJALは邪魔になったのだ。今、日本全国で労働組合つぶし、いやがらせがおこなわれている。とんでもない弾圧が加えられている。私たちは8時間働けば普通に暮らせる世の中を求めている。



JALは昨年JAL被解雇者労働組合との団体交渉をやっと開いた。しかし1月12日に予定されていたJHUとの交渉をドタキャンした。理由はオミクロン株新型コロナ感染対策である。昨年夏、緊急事態宣言が出ている時でさえ、JALは感染対策をしっかりした上で交渉を2回もおこなっている。

それなのになぜ緊急事態宣言が出ていないのに、交渉拒否なのか。私たちJHUはこれに抗議している。

ここ伏見にお住まいの稻盛和夫さんは経営の神様と呼ばれている。この1月に90才になられたと聞いています。しかし、経営の神様が働く者を165名も首にするであろうか。稻盛さんは本当に経営の神様なのか。

伏見の皆さん、稻盛さんに、「今ならまだ間に合う、1日も早くこの解雇問題を解決してほしい」とお伝えいただけないか。JALの社長がこの解雇問題を早期に解決したいと初めて発言したのが、2018年の4月であった。それから間もなく4年になろうとしているが、まったく具体的な解決案を示してきていない。私たちが求めているのは職場復帰と金銭解決である。そのどちらにも背中を向けたままである。企業のトップの発言は重いはずである。何故その発言を履行しないのか、何故その発言を履行せず、私たちの願いに背を向けているのか、不思議でならない。子どもに約束を守れと言えないではないか。

残念なことに去年の12月に私たちの仲間である同じ争議団の細井砂織さんが急死された。どんなに残念なことであったかと思う。彼女と一緒に勝利を迎えたかった。ここ伏見・大手筋の宣伝にも何度も東京から駆け付けてくれた仲間である。JALには大きな資金がある。私たち165名の首など、どうでもいいのかもしれない。私たち165名が全員死ぬまで待っている。それまで解決を引き延ばすつもりなのかもしれない。しかしそれで社会的責任が果たせるのか。

JAL日本航空は今日もこの京都の空の上を飛んでいる。自分たちが関わる便だけは安全に飛ばしたい、そのような祈るような気持ちでJALの社員が全員必死で働いている。しかし、現場から聞こえてくるのは、人が足りない、部品が足りない、時間が足りない、この3つの叫び声である。

JALの客室乗務員は時間給が1000円まで下がってしまった。しかも出来高払いであ



る。コロナの蔓延が広がってフライトが減ってしまい、「食費に困っている」「光熱費をどうやって支払っていいのかわからない」そのような声が聞こえてくる。

皆さん、労働者を大切にしなければ利用者も幸せにはならない、そういう社会的責任が企業にはあると思い、この場所をお借りして宣伝をさせていただいている。あろうことか、JAL日本航空はこの3月1日に新規採用を再開した。3年ぶりの採用だそうである。パイロットと客室乗務員の採用再開である。私たちが首を切られた2010年以降、JALはパイロットを今日の時点で397名、客室乗務員を6205名雇っている。CAは採用しても採用してもやめていく。

それは何故なのか。稻盛和夫氏が2010年にJALに乗り込んできて、安全より儲け、その主義で経営をしているからである。仕事に自信が持てず、次々とパイロットや客室乗務員が職を去っていっている。今、JALのやるべきことは採用ではなく、私たち165名をJALの職場に戻すこと、この解雇争議を解決させることである。皆さんぜひ、仲間がお配りしているチラシをお読みになり、私たちの闘いにご理解とご協力をお願いしたい。」

市民の方の反応は、始める前のノボリを立てるなど準備している時に、がんばってください、と言いに来られた方や、野党の力が弱いから生活が悪くなっている、野党共闘が必要という方、組合の力がそんなに弱くなっているのか、という方がおられました。

次回 宣伝行動

(呼びかけ JAL闘争を支える京都の会)

5月10日(火)

午後2時~3時 伏見・大手筋商店街